

徳川美術館 プレスリリース
2023年10月

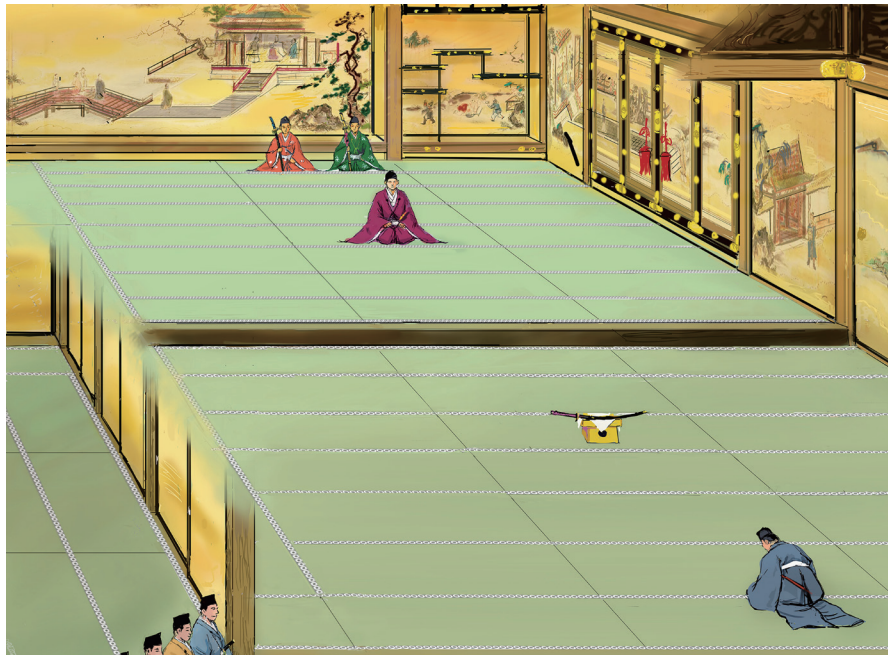


特別展
将軍と尾張徳川家

まつりごと
政と儀礼

2023年11月11日(土)

〜12月15日(金)



展覧会概要

徳川美術館の姉妹機関である徳川林政史研究所（東京都豊島区）では木曾山を中心とした「林政史」研究だけでなく、江戸時代の「幕政史」や尾張「藩政史」も主要テーマとして研究を進めてきました。本展では、その成果の一端を、研究所所蔵文書や徳川将軍家伝来文書を中心に紹介します。将軍家と尾張家との関係性に着目しながら、絵図や文書などの歴史史料に基づいて、江戸城や名古屋城における将軍・藩主の公務の実態を、イラスト等を用いてわかりやすく展示します。

展覧会基本情報

- ◆展覧会名 徳川林政史研究所開設100周年記念特別展 将軍と尾張徳川家—^{まつりごと}政と儀礼—
- ◆会場 徳川美術館 本館展示室
- ◆会期 2023年11月11日(土)～12月15日(金)
- ◆開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◆休館日 月曜日 ※年末年始休館日：2023年12月16日(土)～2024年1月3日(水)
- ◆観覧料 一般1,600円 高・大生800円 小・中生500円
※20名様以上の団体は一般1,400円 高大生700円 小中生400円
※毎週土曜日は高校生以下無料
- ◆主催 徳川美術館・徳川林政史研究所・中日新聞社・日本経済新聞社
- ◆協力 名古屋市交通局

プレス内覧会

2023年11月10日(金)午後1時30分～2時50分 (午後1時15分受付開始)

会場：徳川美術館 講堂

内容：展覧会担当学芸員による概要解説の後、自由取材

第1章 家康と義直よしなお

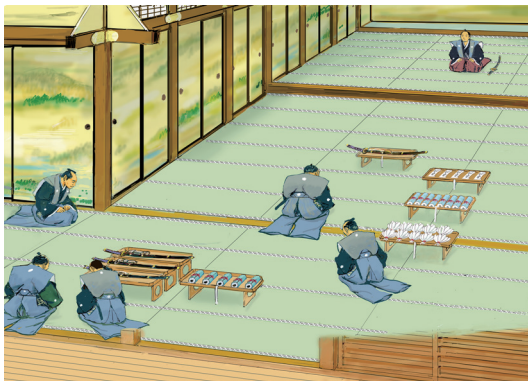
尾張家初代義直（1600～50）は、家康の9男として、慶長5年（1600）11月に誕生した。義直は8歳となった同12年に尾張国おわりのくにを与えられたが、幼少のためすぐには入国せず、家康のもとで養育された。

義直は兄・秀忠ひでただ（のちの2代将軍）に万一のことがあった場合には、将軍家を継承すべき第一の立場にあった。しかし家康死後、秀忠のもとで将軍権威の確立が目指されると、義直は「大名筆頭」としての立場を求められていく。他の大名とは一線を画していたものの、3代将軍家光のもとでは、これまで呼称されていた「尾張様」が「尾張殿」に変更され、将軍との距離感はますます広がっていった。その後、尾張家当主も将軍家に忠誠を誓う誓約書を提出するに至る。

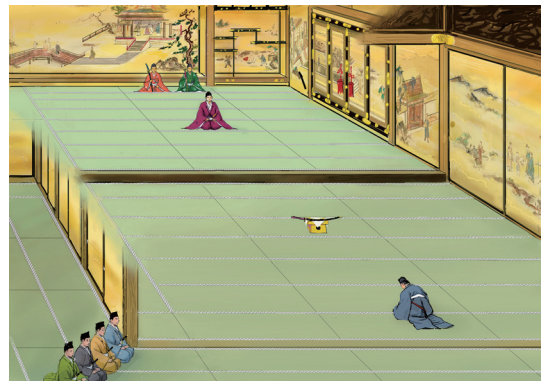
第2章 徳川将軍の仕事

将軍の重要な職務のうち本章では次の4つを取り上げる。1つ目は武家諸法度の公布と領知宛行状の発給である。これらは大名との主従関係を確認する目的を持っており、将軍が行う政務の中でも重要であった。2つ目は大名の御目見えおめみ見えに应じることである。御目見えは細かな規定のもとで行われ、将軍の権威を示す効果があった。3つ目は幕末における外国使節の引見である。将軍が日本の代表者として使節との交渉に対応し、方針を決めなければならなかった。4つ目は情報収集である。将軍が政務を執る際の判断材料を集めるため、時に広く、時に秘密裏に情報を収集した。

なお、将軍は年中行事およびそれに伴う御目見えに应じる時に「表」おもて（政治・儀礼空間）へ出て、姿を見せた。日常的には「奥」おく（執務・生活空間）で生活しており、政務を執るのも通常は「奥」であった。そのため、政務補佐官である御側御用取次が「表」と「奥」の取り次ぎを行っていた。



【画像1】江戸城黒書院における尾張家当主の家督相続御礼
板垣真誠制作



【画像2】江戸城白書院における尾張家当主の年頭御礼
板垣真誠制作

徳川義淳よしのぶ（のちの尾張家8代宗勝むねかつ）が家督相続御礼のために、8代将軍吉宗と御目見えする場面である。奥に座る人物が吉宗、中央で、正座で平伏する人物が義淳、その手前まへにいる人物は老中である。

多くの献上品の中でも飾り太刀が最も将軍に近い場所に置かれていることは、刀が最も格の高い献上品であることを意味している。

この時、同時に尾張家の家臣も将軍に御目見えしている。入側いりがわ（縁側）の左端にいる1人が尾張家の家臣で、その右側みぎがわにいる人物は儀礼の進行役である奏者番である。家臣から将軍への献上品はその前まへにある品々である。

尾張家当主が江戸にいる場合、正月元日には江戸城へ登城し、白書院で御目見えを行った。この儀礼を年頭御礼ねんとうおんれいという。奥おくにいる緋色の装束を着た人物が将軍で、手前に座って平伏する人物が尾張家当主である。将軍がいる上段は28畳、当主がいる下段は24畳半の空間で、将軍と当主との間は9畳分、実に約8mの距離が取られていた。調見者てんけんしやと距離を取ることで、将軍は容易には近づきたい存在であることを見せ、威厳を示した。



【画像3】東武御本丸絵図
江戸時代 18世紀 徳川林政史研究所蔵

江戸城本丸御殿の絵図で、「表」と「奥」が描かれている。江戸城の本丸御殿には女性たちの生活空間である「大奥」もあったが、本絵図には描かれていない。

展示会場では
板垣真誠氏による歴史再現イラストを
展示公開！！

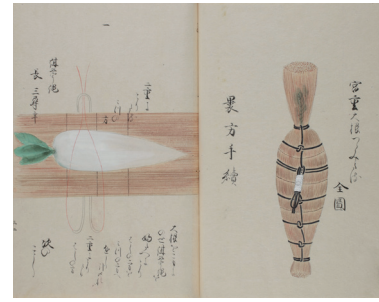
板垣 真誠（いたがき まこと）
1958年 東京生まれ

武蔵野美術大学入学後、鈴木敬三氏の有職故実に出会い歴史考証の世界で生きていく事を決意。朝日新聞、学習研究社、NHK放送局などで歴史再現イラストを制作。

第3章 将軍と尾張家当主の贈答

贈答は、政治・経済・人間関係を円滑に進める上で欠かせない慣習であった。戦のない時代にあつて、大名は自家の存在を喧伝するため、四季折々に領内でとれた産物などを将軍に献上していた。

一方、将軍も、大名が手伝普請を務めたり、献金をした時などには、恩恵を施す意味で、金・銀・衣類などを下賜していた。特に刀剣は、贈答品の中でも最上位の品であった。



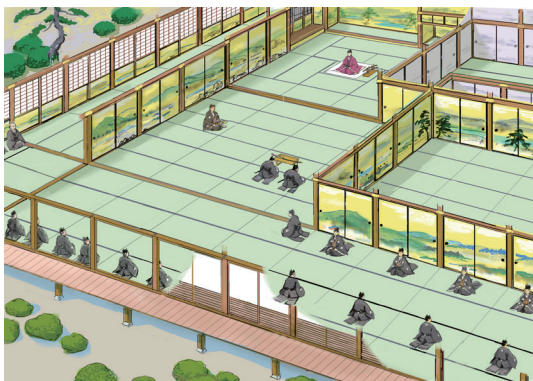
【画像4】宮重大根「礼物軌式」のうち
江戸時代 文化13年(1816)序
徳川林政史研究所蔵



【画像5】重要文化財 刀 無銘正宗
徳川家継(7代将軍)下賜・徳川家継(尾張家6代)拝領
鎌倉時代 14世紀 徳川美術館蔵

第4章 尾張家当主の仕事

尾張家当主の仕事は多岐にわたっていた。本章では大きく3つを取り上げる。1つ目は領内の把握である。当主は大勢の家臣を引き連れて領内を巡見し、領民に当主としての権威を示す一方、領内の見聞に努めていた。2つ目は家臣との謁見である。家臣は家格や職制によって、序列が厳しく決められていた。それを明瞭に表す場が御目見えだった。3つ目は家臣団統制である。当主は多くの家臣団を抱えていた。家臣には役職を与え、当主の政務を支える役割を担わせた。



【画像6】
尾張藩上屋敷書院における太刀馬代御礼以上の年頭御礼
板垣真誠制作

正月2日の太刀馬代御礼以上の家臣の年頭御礼は、39畳の広さの書院で行われた。年寄・城代格・側用人は下段下の入側(縁側)に、用人・目付は二之間の入側に対面で座った。

謁見者は、用人・目付が着座する間を通して出座し、飾り太刀を献上した。謁見者の右隣に座っている人物は、献上品などを披露する用人である。兩人とも当主の正面から右にずれた位置に座っている理由は、距離が比較的近い場合、当主の正面に座るのは失礼にあたるためであろう。

【画像7】
陣備図 大御先鋒日之丸御備(六) (部分)
江戸時代 18-19世紀 徳川林政史研究所蔵

全89帖の折本からなる尾張家の軍制資料である。軍団編制の状況が、一目で見渡せるように工夫された絵図となっている。本図中、具体的な人名は「渡辺(邊)半蔵」のみであるため、渡邊家が尾張家の軍団編成と渡邊家の由緒とを確認する目的で製作し、のちに尾張家に献上したと考えられている。



第5章 将軍と尾張家当主の幕末・明治

尾張家は本来、御三家筆頭として将軍を補佐する立場にあつた。しかし幕末動乱期には、尾張家14代慶勝が老成・井伊直弼と対立し、隠居・謹慎に処せられており、第一次長州征討時も、将軍家の期待通りの行動はとらず、長州を屈服させることなく最小限の犠牲で解決するなど、必ずしも将軍や幕府の意向に沿った行動をとったわけではなかった。

また尾張家が王政復古の政変に参加し、新政府成立に大きな役割を果たしたこと、天皇を戴く新政府軍に恭順するように勧める勤王誘引活動を繰り返していったことは将軍を裏切るような行動であった。

しかし、尾張家は将軍を見捨てたわけではない。江戸城が穏便に無血開城された背景には尾張家による説得があつた。尾張家が新政府側に立っていたからこそ、こうした行動をとることが可能であり、むしろ将軍のために陰ながら尽力していたといえる。ここに幕末・明治維新时期における尾張家の存在意義が示されている。

展覧会関連イベント

■記念講演会 「将軍家・尾張家における政と儀礼」

講師：徳川林政史研究所 所長 深井雅海

日時：2023年11月12日(日)午後1時30分～3時(午後1時開場)

会場：徳川美術館講堂

定員：80名(事前申込制/先着順)

参加費：無料(入館料別途要)

受付：徳川美術館公式ホームページにて受付中

広報画像ならびに視聴者・読者プレゼント提供

特別展「将軍と尾張徳川家一政と儀礼」を、ぜひ御社媒体にてご紹介ください。
画像を1点以上使用してご紹介いただいた場合、視聴者・読者プレゼントとして本展覧会の御招待チケット(非売品)を、1媒体5組10名様にご提供いたします。



<下記内容をメールまたは電話、ファックスにてお知らせください 利用期間：～2023年12月15日(日)まで>

希望画像番号

使用媒体

放送日・発売日

プレゼント提供 希望する 希望しない

貴社名

ご担当者様

データ送付先アドレス

ご連絡先電話番号

[ご利用にあたっての注意事項]

- ・画像のご利用は本展覧会の紹介用途のみに限ります。
- ・部分アップのトリミングは可能ですが、色変更等の加工はご遠慮ください。
- ・二次利用不可です。
- ・画像には最低限「タイトル」と「所蔵」のクレジットを明記してください。
- ・内容確認のための校正原稿をお送りください。
- ・掲載誌、DVD等を1部「徳川美術館 管理部 広報宛」でお送りください。



〒461-0023 名古屋市東区徳川町 1017

TEL：052-935-6262 (10時～17時受付)

052-935-8222 (営業時間外受付)

FAX：052-935-6261

担当：吉川・竹内

public-info@tokugawa.or.jp